

## ⇄ ごあいさつ ⇄

中期経営計画「GD100」をスタートさせた2006年度より、創立100周年を迎える2017年に向けて、明確な目標を掲げて取り組んでまいりました。目標を達成するためアイデアが生まれ、社員が一丸となって前進することができたと考えています。社会も会社も、私たちはいずれ次の世代にバトンを手渡さなくてはなりません、その「バトン」をどうすればよりよい形でつないでいくことができるのか、そのことを考え続けた12年でした。

CSR活動においては、企業として社会的責任を果たすというよりも、社会から信頼を得られる会社であるためにという思いで取り組んできました。短期的な数字だけを追い求めるのではなく、多様なステークホルダーから信頼を得ることを重視する。同時に、近年重要視されているESGの観点を常に意識していれば、道を誤ることはないと考えています。

100周年の年を迎えた今、念頭にあるのは2050年、そして次の100年という次の区切りに向けてどのような会社であるべきか、ということですが、健全に、そして着実に成長を重ねていけば、社会からの信頼は必ず得られると確信しています。

私が考える横浜ゴムの最大の強みは、何よりも自由な企業風土です。従業員が自由に発想し、発言できる当社の風土を最大限に生かしつつ、第四次産業革命に象徴されるような急速な技術の進歩や社会環境の急速な変化にもしっかりと対応していく。それを繰り返しながら、世界各地でその土地に根ざした企業活動を展開できる「世界企業」を目指していかなくてはならないと考えています。

そのためには社員一人一人が、自分のことだけを考えるのではなく、誰かのために、そして社会のために役立ちたい、貢献したいという「思いやり」を持つことが重要です。未来の横浜ゴムを担う世代には、「思いやり」を持って仕事に取り組んでもらいたいと考えています。

代表取締役会長

南雲 忠信

